



森ボラ 通信

第224号 2021年1月20日発行
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**
URL <https://www.shinrin-npo.info/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター
TEL (fax): (011) 816-7010
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ 新年ご挨拶



森ボラは利他の心

理事長 横山 清

謹賀新年 コロナ・パンデミックという世界規模の災禍の中にあって「明けまして、おめでとうございます」と言うことに躊躇う自分を謹んで反省する意味も含めて、謹賀を年頭の御挨拶と致します。

コロナ自粛の結果、経済活動が全地球で停滞することによって、痛めつけられていた地球が復活の兆しを見せている、との報道がなされております。コロナ禍を機に広がった「新常態社会」への適応対策では非接触型の生活が求められ、通勤回数の削減などにより都市圏を離れて地方に住んだり、視野を広げて社会貢献することも急速に増えるであろうと予測する知識人の意見もあり、「新しい生活様式」の中に森林ボランティアの活動も重要な位置を占めるかもしれぬかと密かに期待しております。

今年は何をおいても健康第一に努め、世の中、人々の為の森ボラ活動を広げましょう。

■ 活動報告

◆ 冬季セミナーを開催

岡村俊邦氏講演 『近自然森づくり』

今季最初のセミナーは、この春から続く新型コロナウイルスの影響で3月に行う予定であった岡村先生（近自然森づくり協会理事長・北海道科学大学名誉教授）の講演を、12月16日に札幌エルプラザ環境研修室で漸く開催することが出来ました。本来は今回の講演をお聴きしてから野幌森林公園道有林において実践する計画でしたが、セミナーができないまま、岡村先生の指導の下、既に実践を始めているのが実態です。



講演は『近自然森づくり』のテーマで、話はまず「森と水の関係」について話された後、発泡スチロール箱に植物苗が植栽されているものと土だけで何も植えられていないものにジョウロで水を降らせた時に水の流れがどの様になり、どの様な水が流れ出てくるのか？簡単な実験を行ったビデオを見せてくれました。ビデオの中で見ていた子供たちの理解も得られた様です。

次に「生物多様性と生態系サービス」について話されました。我々は自然から多くの生態系サービスを受けており、持続的に生態系サービスを受けられる森の大切さについて、過去に天売島において森を伐採したことにより飲み水にも困るようになった事例を話されました。天売島ではその後の植林で大きくなった針葉樹が強風により風倒が発生。列状間伐や群伐をおこなったが母樹が近くにないところでは天然更新がなされず、広葉樹の植栽も失敗している例が多いと話されました。

持続的に生態系サービスを受けられる森とは？ 持続的に森の状態が維持されている森であり、

自然災害に強い森ということです。この為には複層異齡針広混交陽光林が大切であり、この中で計画的な育成と択伐が必要であると話されました。この様な森づくりを実際に行っているのがスイスであり、岡村先生はスイスの実態を調査・研究し『近自然森づくり』として、スイスのフォレスタを日本に招き各地で紹介、指導を実施しています。但し、広い面積で裸地や広葉樹の母樹の無いところでの森の再生には我々も岡村先生指導の下、既に野幌森林公園の風倒被害地で始めた「生態学的混播・混植法による緑化」がお勧めであり、これまで実際に行われた事例の紹介がありました。

野幌森林公園での我々の活動結果がある程度見えるようになるには恐らく15年位の年月が必要であり、その現場を確認できる協会員はどれ程いるであろうか？昔から植栽した森の結果が見られるのは孫の代と言われており、今活動している我々としては結果を信じて最善策を尽くすのみです。（文・荻田）

◆ 伐木安全講習を開く

1月12日の活動初めに恒例となった「伐木安全講習」を澄川環境林の管理地区とD-2区にて、講師は全て会員の手で行いました。

初めに大窪さんから昨年から周知している「チェーンソーでの伐倒安全手順」の一部修正を含む全体についてお互いの笛の合図、伐倒時の離隔距離、かかり木処理、玉切り、枝払いなどの注意点を確認しました。

次に矢野さんから昨年末に「労働安全衛生規則改正講習」を受けた内容から、改めて安全な活動に必要な項目を紹介しました。受け口は胸高直径20cm以上を対象とする。（当会は10cm程度以上）かかり木は速やかに処理すること。チェーンソー操作者は必ず切創防止用保護衣を着用すること。その内容の詳細を説明しました。また、林業労働災害は減少傾向であるが、全産業に比べて突出し、高齢者の伐木時の死亡事故が多く発生しており、しかも、北海道内の事故が多いことが紹介されました。

その後矢澤さんから木材を縛る方法としてロープを用いた「ボーライン・ノット」を教わりました。これは登山でも利用されているとのことでした。

最後にD-2区の現場に移動して、あらかじめ印をつけたかかり木の対処について矢澤さんから説明を受け、矢野さんがチェーンソー操作を担当しました。チルホルのワイヤーロープを結ぶ位置、受け口の作り方は新しくV形カットの方法が紹介されました。

いずれにしても、我々の活動はノルマも無く、早さを求めることもありません。活動の安全を第一として、冬季の整理伐をゆっくり楽しみたいと思います。（文・檀棒）



ロープの結び方講習



傾斜木のかかり木処理講習

◆ 2021年度(第六期) 親子森林教室“森しり隊”の実施計画

～今季は会員例会がコロナの影響で開催できませんので紙上で説明します～

今年度の親子森林教室は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて当初計画を変更しながらも何とか10月に第5回目を終え、あとは2月、3月の2回を残すだけとなりました。また、4月から始まる2021年度(第六期)に向けては12月から参加者募集を始めましたが、1月12日で定員に達しましたので募集を終了しています。

この親子森林教室は2014年に森ボラが策定した「澄川環境林基本計画」において、森ボラがこれ



2020 年度のマスクの開校式

(表-1) 親子森林教室の参加人数の推移 (人)

		子どもの参加人数	1年間の延べ参加人数			合計
			子ども	保護者等	協会員	
2016年度	第一期	11	53	52	109	214
2017年度	第二期	17	100	79	115	294
2018年度	第三期	9	47	46	115	208
2019年度	第四期	15	83	82	98	263
2020年度	第五期	12	50	(第5回までの累計) 63	86	199
2021年度	第六期	19	(←1月12日現在の応募者数。募集終了)			

まで取り組んできた育林活動や近隣小学校の総合学習支援活動の経験を活かして、自前で本格的な環境教育活動に取り組もうと2016年から始めたものです。これまでの5年間で64名の子どもたちが学び、協会員を含めた参加者は1,200名を超える活動になっています(表-1)。

手探りで始めた親子森林教室は、毎年、一年の活動を振り返って得た反省点からカリキュラムに改善を加えながら今日に至っていますが、次年度も次の点を変更して取り組む計画です。

【2021年度親子森林教室の主な変更点】

- ・これまで澄川で行ってきた植樹体験を野幌道有林で開催する植樹祭に参加することに代えます。また、好評だった“秋の森の大運動会”は更に内容を充実させて継続します。
- ・第1回目・開校式は前年度同様に澄川環境林内で開催し、少し時期をずらして4月中旬(18日)に開催します。そして、第1回目から午後には及ぶ開催時間とし、開校式の他にネームプレート作りと植菌を行います。
- ・冬季の第6回目(2022年2月)は依然として焚火が出来ない見込みなので、午前中だけの活動とします。なお、今年度(2021年2月14日)も午前中の活動に変更します。
- ・第7回目(2022年3月)となれば修了式も保養センター駒岡で開催が可能と考えられますので、通常通り午後には及ぶ開催時間とします。なお、今年度最後の活動(2021年3月14日)は修了式を含めて澄川環境林だけで行い、午前中の活動とします。
- ・班編成をしての活動はコロナ対策もあり次年度も継続します。
- ・来年度も今年度と同様の感染防止対策(参加者の朝の検温、マスク着用、消毒・手洗いの励行、適度の間隔確保、協会員の介助は必要最小限、拡声器・フェイスシールドの活用など)を継続徹底します。

親子森林教室はこれまでも多くの協会員が参加して準備や当日の運営に当たってきましたが、これからも同様の手助けが必要です。そして、私たちは森ボラ活動で培った経験こそあれその道のプロでもなく試行錯誤の連続ですが、だれもが説明者・補助者になってこの活動を支えていこうと思えます。協会員の皆さん、

2021年度6年目の取組みもご協力をよろしくお願ひします。

(表-2) 2021年度親子森林教室の年間活動スケジュール

区分	開催日時	開催場所	主な活動項目
第1回目	2021年4月18日 10:00~14:30	澄川環境林	開校式・ネームプレート作り・植菌
第2回目	6月13日 9:30~14:30	〃	播種体験・五感で感じる森歩き
第3回目	7月11日 14:00~20:00	〃	下草刈り体験・ドングリそろばん(ボールペン)作り・コウモリとホテルの観察
第4回目	9月26日 9:30~14:30	野幌道有林	植樹祭・葉っぱの話
第5回目	10月17日 9:30~14:30	澄川環境林	秋の森の大運動会(山取り苗作り・ノコギリ体験・腐葉土観察等)
第6回目	2022年2月13日 9:30~12:00	〃	動物の足跡観察・整理伐体験・冬芽観察
第7回目	3月13日 9:30~14:30	澄川環境林 & 保養センター駒岡	樹液採取・マイリーフ作り・修了式

(注) 具体的な年間スケジュールは募集チラシまたはHPをご覧ください。

(文・親子森林教室事務局)

■ 澄川の自然 17

ミズキ (ミズキ科・ミズキ属)

小屋付近に特に多くみられる木です。春先、この木を伐ったり樹皮を傷つけたりすると、樹液が沢山出てくることからミズキの名が付いたといわれています。

枝先が赤みを帯びて美しく、枝が規則正しく水平に出ること、上向きで運が上向くということでお正月の繭玉飾りの木になりました。

文・西野(澄)/写真・三橋



■ 図書コーナー

最近購入した図書を紹介します。閲覧、貸出し、今後の購入希望図書がありましたら市山、大窪まで連絡をお願いします。(事務局)

番号	図 書 名	著 者	発行所	購入年月
79	狙いどおりに伐採する為に伐木のメカニズム	上 村 巧	全国林業改良(普)	2020年12月
80	令和2年度山づくり 地域版 8セット	北海道森と緑の会	北海道森と緑の会	2020年12月

*当会所有の蔵書一覧は、ホームページの「会員のページ」を参照してください。

■ 今月の幹事会

【1月8日】 出席者:市山・大窪・荻田・檀棒・加藤・清澤・佐野・矢澤・矢野

- 2021年を迎えて:今年もコロナの状況を確認しながら、安全な活動を続けましょう。
- 2021年2月、3月スケジュール~2月幹事会2月10日(水):コロナ対策で活動日削減を継続。
- 2020年12月会計報告、1月~3月収支計画:いずれも了承。
- 第6回親子森林教室(2/14)スケジュール、2021年度応募状況:参加予定者継続6名、新規10名。
- 森林・山林多面関係報告、決算報告。消耗品購入1月末、人件費2月中旬まで:いずれも了承。
- 2021年度主な活動と年間計画:例年通りの活動回数を計画。コロナの状況により変更有。
- 現場報告 ・整理伐状況(D-2区):現在今年度予定の15%終了。
- 現場対応 ・1/12 かかり木処理、伐倒手順安全講習実施:新しい受け口の作り方、ロープの結び方を講習。
- その他 ・入会金・年会費扱い確認:年会費未納者への再請求お知らせは7月とする。
・森ボラの新型コロナウイルス感染予防と拡大防止策を改めて1月に周知徹底させる。

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加数	活動内容
12月16日(水)	エルプラザ	14	冬季セミナー 岡村先生講演「近自然森づくり」
12月18日(金)	澄川	14	D-2区整理伐
12月20日(日)	澄川		コロナ対策により中止
1月8日(金)	ラルズ生活研究センター	9	幹事会
1月8日(金)	澄川		コロナ対策により中止
1月12日(火)	澄川	17	伐木安全講習、ロープの結び方